

吉野復興大臣の青森県及び岩手県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年6月4日(日) 15:40-15:55 於) 岩手県洋野町)

1. 発言要旨

本日は、青森県の八戸市、そして岩手県の久慈市、野田村、洋野町を訪問いたしました。

八戸市では、館鼻漁港で犠牲になられた方々への黙祷をしてまいりました。そこは漁港ですので、朝市が朝の3時から朝の8時までやっているということで、片づけをしていたんですけど、すごい朝市でありました。八戸市の皆様方の本当に力強さ、災害なんかに負けないぞという力強さを感じたところです。

その後、多賀の多目的運動場を視察しました。ここは、本当に天然芝でサッカーをやっていたところなんですけど、もう一つ建物の後ろには人工芝の練習場がありまして、すばらしい施設でした。でも、ここは普段はそういう運動施設として活用しますが、いざ災害のときには避難所、屋上には自家発電の装置もありまして、あと乾パン等々、水も7年もつという準備をしてありまして、いざといった場合には避難所を兼ねた、いわゆる防災の拠点となる施設でございます。

次に、久慈市に参りました。ここでは、漁業集落の公園で鐘を鳴らして黙祷をしてまいりました。モニュメントがございまして、津波の高さまでの、本当に高いモニュメントがございました。そして、被災の状況を聞いてまいりました。

その後、三陸鉄道に乗りまして、久慈駅から陸中野田駅まで参りました。私はこの間、ドラマの「あまちゃん」ののんさんが大臣室に見えられて、私もずっとあのドラマは大好きで見てきたところなんですけど、のんさんに来ていただきました。のんさんは、東北がんばれという活動をしておられますので、その御挨拶に来られたところなんです。そういう意味で三陸鉄道、本当にすばらしい社長さんのアイデアでお座敷列車もあるし、団体の特別列車にも本当にすばらしい、オリエント急行並みのすばらしい車両に乗せていただいて、観光のすばらしさを、それを実践しているところを見てまいりました。

この間、衆議院の復興特別委員会で参考人招致をしていたんです。私は大臣ですから出られなかったんですけど、ずっとテレビでその参考人招致の模様を見てまいりました。そこで、社長さんが、本当に復興に向けてすばらしい取組を紹介している姿を見たところです。

次に野田村に参りました。城内地区の区画整理事業を見てまいりました。野田村の小田村長さんは、津波で家が流された方で、ち

ようど新しい家ができた直後でございましたので、私も実は津波で大規模半壊という形で、同じ被災を受けた者として話が合いまして、大臣として被災した方々に支援を求める方がいれば、最後の一人まで支援をせねばならないなという決意を改めて感じたところでした。

最後に、洋野町に参りました。ここは漁協の種市事業所で、ウニの赤ちゃんを作る事業でございます。実は、福島県大熊町にヒラメ、ウニ、アワビ、ここの事業所でやっているのと同じような種を作る事業がございますけど、そこは津波で、あと地震でやられ、その後、原発事故で今も困難区域という形で入れません。そこのお話も責任者の方がしていただきました。

その後、洋野の水産会館ウニークに参りまして、町長さんから被災の状況等々のお話、そしてここの再開の状況等をお話し頂きました。被災された写真を見て、よくぞここまで頑張ったなという思いでいっぱいでございます。

そこで、「あまちゃん」で見た南部ダイバーのトレーナーを買って、後ろに南部ダイバーの音頭が書いてあったので、これから、まあトレーナーですから、冬に着るものだと思うんですけど、家ではくつろいだ姿でそれを着ていきたいと思います。

そして、私、久しぶりに生ウニをスプーンで食べました。私の地元にもあるんです、小浜漁港というところ。ここは素潜りでウニを養殖しているところなので、いつも毎年震災前はお呼ばれをしていたんですけど、6年間食べておりませんでしたので、やっぱりウニはおいしいな、特に洋野町のウニはおいしいな、そんな感じをしたところでした。

2. 質疑応答

(問) 岩手県の県北を視察されたと思うんですけども、復興の進捗の状況についてはどのような印象を受けられましたでしょうか。

(答) 岩手県、南と北と、最初は南を見てきましたけど、かなり被害は大きかったです。北のほうは、南と比べると被害は小さかったと思いますけども、被害の大きさ、小ささよりも、被害を受けたというそのことで町長さん、一生懸命頑張られて復興をやってまいりました。

特に久慈市は、「あまちゃん」でまちがにぎわっていたんですけど、それよりも久慈市民の方々が「あまちゃん」のあのドラマができるまでは、全国で「おれんちは誰も知らない」という形で、少し引っ込み思案な気持ちでいたんですけど、「あまちゃん」で全国からお客さんが来てくれて、我々の地域はこんなにすばらしいんだという、そういう自信とやる気を市民の皆様方が持ったと

いうのが、あの「あまちゃん」効果で多くの方々が来てくれるよりも一番うれしかったというのが市長さんのお話でございました。

やっぱりまちづくり、復興は、幾ら役場、リーダーが頑張っても、本当に前向きに、私たちのふるさと自分たちで再建するんだというそういう心がないと本当の復興はできないと思います。そういう意味の元気を頂いたというお話も伺って、「あまちゃん」効果は、本当に我々知らないところの人を久慈市にひきつけたと同時に、久慈市の皆様方を元気づけたという意味ですばらしい効果があったんだなということを改めて思い出されたところです。

(問) 今日、最後の岩手県北の沿岸を御覧になったわけですが、この地域の今後の課題というのはどのように御覧になってお感じになったかお伺いしたいんですが。

(答) ハード面は皆さんそれぞれ頑張っていたんですけども、やっぱりこれからソフト面ですね。特に野田村の村長さんも私と同じ被災者なので、心の問題。実は私、今、津波の映像が出るとチャンネルを回すくらい何かがあるんですけど、村長さんもおっしゃっていました。ですから、そういう心の復興をはじめとするソフト事業にこれから重点が移っていくんだなというのを、岩手県全体を見て思ったところです。

(問) 岩手県北、青森県では八戸市で、どのように国として支援していくかというこの政策についてはどのように今後展開していくかというのをお聞かせください。

(答) ハードの要求もございましたけど、ハードはハードできちんと残り4年間ですからしっかりと支援して、復興庁はあと4年の間にハード面は全部完成させたい、そういう取組をしております。でも、これから、例えば水産物の工場は立ち直ったんですけど、販売がなかなかうまくいかない等々が岩手県全体の水産業について言えると思います。ですから、そういう販路拡大という新しいソフト、大きな意味でソフト事業と言いますが、心の復興から、ソフト事業から、販路拡大から、これから取り組んでいかなきゃならないなと思っております。

心の復興も、これは村長さんもおっしゃっていましたが、特に男のお年寄りの心の折れちゃった方がなかなか引きこもって出てきてくれないんだということでありまして、ヒツジかヤギを飼って、公園をつくりますので、そこに放牧して、その管理なんかを頼んでみようかな等というアイデアも私とのお話の中で出たところです。

(問) 再生可能エネルギーの普及に関することなんですけれども、久慈市のほうから送電網の強化という要望が出されたというふうに伺っているんですけども、洋野町でも同じような課題があるか

と思うんですが、送電網の強化という点についてはどのようなお考えでいらっしゃるのでしょうか。

(答) そうですね、送電網が自己負担ですから、そっちにお金がかかるので、初め計画したものを取り下げるといってお話も伺いました。実は福島県でもそうなんです。福島県は2050年、全ての県民の使う電気は再生可能エネルギーで賄おうということで今、知事をはじめ頑張っているところなんですけど、やっぱり同じ問題がありますので、それは一義的には経産省でございまして、特に東北の場合は復興庁、ここが責任を負わねばならない地域でございまして、経産省と一緒に頑張って送電網の整備、そして再生可能エネルギーを我が国で普及していく、そういう仕掛けをこれから作っていききたいなと思っています。

(以 上)